

2025年7月23日

各位

会社名株式会社リボミック  
代表者名代表取締役社長中村義一  
(コード番号: 4591 東証グロース)  
問合せ先財務経理部長今井利哉  
<https://www.ribomic.com/contact.php>

### 第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）及び第16回新株予約権（行使価額修正条項付）に係る資金使途及び支出予定時期の変更に関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、2020年1月10日付「第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項）の締結に関するお知らせ」及び、2022年10月11日付「第三者割当による第16回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」並びに2022年6月13日付「新株予約権の行使期間満了、特別利益の発生、資金使途、金額及び支出予定時期変更に関するお知らせ」、2024年2月20日付「第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）及び第16回新株予約権（行使価額修正条項付）に係る資金使途及び支出予定時期の変更に関するお知らせ」にて開示いたしました第15回新株予約権及び第16回新株予約権により調達した資金の資金使途及び支出予定時期について、下記のとおり変更することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 資金使途変更の内容

##### (1) 変更の理由

当社は、2020年1月10日付「第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、当社が中長期的に成長するために、既存パイプラインを継続的・重層的に拡大することを意図し、RBM-007を用いた医薬品開発、心不全に対する新薬であるRBM-003の研究開発、変形性関節症に対する新薬であるRBM-010の研究開発を目的とした第三者割当による第15回新株予約権の発行による資金調達を実施いたしました。

また、2022年6月13日付「新株予約権の行使期間満了、特別利益の発生、資金使途、金額及び支出予定時期変更に関するお知らせ」にて調達する資金の額、資金使途及び支出予定時期を変更する旨を開示いたしました。

その後、2022年10月11日付「第三者割当による第16回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、既存パイプラインの継続的・重層的な拡大を目的として、非臨床試験段階のパイプラインの1つであるRBM-011を用いた肺動脈性肺高血圧症の研究開発、薬効の効率性及び早期の収益性の観点からアダマールの新規用途開発としてドラッグデリバリーシステム用アダマールを中心とした探索研究を目的とした第三者割当による第16回新株予約権の発行による資金調達を実施いたしました。

そして、2024年2月20日付「第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）及び第16回新株予約権（行使価額修正条項御付）に係る資金使途及び支出予定時期の変更に関するお知らせ」にて、アダマールのモダリティ（治療手段）を生かした疾病領域等を考慮し、第15回新株予約権及び第16回新株予約権で予定していた具体的な資金使途項目に充当する金額及び支出予定時期を変更いたしました。

この度、資金の支出状況、当社開発パイプラインの開発状況を考慮し、第15回新株予約権及び第16回新株予約権で予定していた具体的な資金使途項目に充当する金額及び支出予定時期等を以下の背景により変更いたしました。

① ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用

はじめに、アプタマー・ドラッグ・コンジュゲート (ApDC) の開発においては、慈恵大学との共同研究で取り組んでいる光感受性物質とのコンジュゲートやsiRNAと組み合わせたキメラ核酸の創出に成功する等の新規分子構造の作成に成功しており、動物試験の実施の検討を始めております。

また、脂質ナノ粒子 (LNP) とアプタマーを組み合わせた技術では、中枢神経系への移行を含めた概念実証が進捗しており、引き続き事業会社との提携協議を進めるとともに、産業応用のための製造技術の開発にも着手していきたいと考えております。

このように、第16回新株予約権の発行及び第15回新株予約権の資金使途変更により充当中のドラッグデリバリーシステム用アプタマーの探索研究については、要素技術の確立が進んだことから、計画していた研究開発における支出を一定程度削減可能となり、今後収益モデルとして事業化を推進するため、資金の支出予定額、支出予定時期の見直しを行ったことによるものです。

② RBM-011 (肺動脈性肺高血圧症に対するアプタマー医薬) の探索研究費用

肺動脈性肺高血圧症は、いまだ、血圧壁の肥厚を改善する作用を持つ薬はなく、その開発が強く望まれております。

当社は、第16回新株予約権にて、調達した資金を活用し、国立研究開発法人国立循環器病研究センターとの共同研究にて、非臨床試験を実施してまいりました。

本共同研究において、RBM-011が肺動脈性肺高血圧症モデル動物において、肺動脈壁の肥厚を顕著に抑制することが明らかにされ、本調達の目的である非臨床試験に関する薬効試験、GMP製剤合成、安全性試験を当初の支出予定額よりも支出を抑えた状態での目標達成できたことにより、この度資金の使途変更をいたしました。

今後は、ライセンス・アウトにより臨床試験を進める方針であり、現在提携交渉を進めております。

③ 運転資金

安定的な収益の確保が出来るまでの当面の当社における既存事業の維持において、今後の運転資金の必要額を鑑みて、運転資金の支出予定額、支出予定時期の見直しを行ったことによるものです。

(2) 変更内容 (変更箇所に下線を付しております。)

- ・ 第15回新株予約権

(変更前)

	具体的な使途	充当予定額	支出予定時期
①	RBM-007の加齢黄斑変性症及び軟骨無形成症を対象とした臨床開発費用 (臨床開発のための薬剤合成費用を含む)	3,239	2020年1月 ~2026年3月
②	RBM-003の心不全を対象とした非臨床試験費用	40	2020年1月 ~2023年12月
③	RBM-010の変形性関節症を対象とした非臨床試験費用	80	2020年1月 ~2023年12月
④	新規技術開発費用 (製剤化技術開発・導入他)	95	2020年8月 ~2024年3月
⑤	ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用	<u>502</u>	<u>2024年3月</u> <u>~2026年3月</u>
⑥	運転資金	<u>1,530</u>	2020年1月 <u>~2025年3月</u>
合計		5,485	—

(変更後)

	具体的な用途	充当予定額	支出予定時期
①	RBM-007の加齢黄斑変性症及び軟骨無形成症を対象とした臨床開発費用（臨床開発のための薬剤合成費用を含む）	3,239 (2,619)	2020年1月 ～2026年3月
②	RBM-003の心不全を対象とした非臨床試験費用	40 (40)	2020年1月 ～2023年12月
③	RBM-010の変形性関節症を対象とした非臨床試験費用	80 (80)	2020年1月 ～2023年12月
④	新規技術開発費用（製剤化技術開発・導入他）	95 (95)	2020年8月 ～2024年3月
⑤	ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用	<u>152 (10)</u>	<u>2025年6月</u> <u>～2027年3月</u>
⑥	運転資金	<u>1,880 (1,530)</u>	2020年1月 ～2027年3月
合計		5,485	—

(注) 上記の充当（予定）額欄の括弧書きの数値は2025年6月末時点における充当済金額となります。

・ 第16回新株予約権

(変更前)

	具体的な用途	充当予定額	支出予定時期
①	RBM-011（肺動脈性肺高血圧症に対するアプタマー医薬）の研究開発費用	<u>606</u>	2022年10月 ～2025年3月
②	ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用	494	2022年10月 ～2026年3月
③	運転資金	<u>239</u>	2023年4月 ～2026年3月
合計		1,339	—

(変更後)

	具体的な用途	充当予定額	支出予定時期
①	RBM-011（肺動脈性肺高血圧症に対するアプタマー医薬）の研究開発費用	<u>408 (407)</u>	2022年10月 ～2025年7月
②	ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用	494 (494)	2022年10月 ～2025年6月
③	運転資金	<u>437 (90)</u>	2023年4月 ～2027年3月
合計		1,339	—

(注) 上記の充当（予定）額欄の括弧書きの数値は2025年6月末時点における充当済金額となります。

2. 業績に与える影響

本件による2026年3月期の業績に与える影響は軽微であり、2025年5月13日に公表いたしました2026年3月期通期業績予想に変更はありません。

以上